

質問

複数校連携では、連絡調整がむずかしいと思うのですが、効率よく連絡調節する方法があれば教えて欲しいです。(岐阜地区 小学校)

教頭の学び合いが若手育成につながるが、連絡・調整の課題は何か。また、教務主任への働きかけのポイントは何か。(西濃地区 中学校)

複数校での研修について、教頭会として実施したのか、市教委等と連携して行ったのかどうでしょうか。(旅費等の扱いについても教えてください)(美濃地区 小学校)

周辺校で、グループをつくって研修ができるとよいと感じている。(岐阜地区 中学校)

複数校でのメンター制を推進するにあたってのむづかしさは何か？(岐阜地区 小学校)

教育委員会が実施する研修会との兼ね合いはどうなっているか知りたいです。(岐阜地区 中学校)

複数校連携メンタリングの調整は、どのように実施していますか。町教科研等、全員が集まる場を活用して行うのでしょうか。(西濃地区 中学校)

いろいろな形で研修会を持たれていますが、主担当となる教務主任の負担が大きくなっていないでしょうか。小規模校においては、教務主任の抱える仕事は多くなっていると感じています。(東濃地区 小学校)

養老町教育委員会が主催する研修(悉皆 or 希望)があると思いますが、今回ご発表の教頭会主催の研修システムとの関係はありますか。年間何本の研修があるか、それによる教職員の負担や研修で抜けた補充による学校の負担はいかがでしょうか。(岐阜地区 小学校)

意見・感想

若手の指導力向上にあたっての効果的な研修の具体について学べて有意義でした。(西濃地区 小学校)

本校でも若手教員の育成は急務のため、参考になる取組でした。(岐阜地区 中学校)

神戸町もお内容に人口が減少し、子どもが減ってきて先生方も減っています。若い先生の困り感については、昨年度安八郡でも発表しましたのでよくわかりました。各校で、2年にわたりメンタリングの場を作っていることが素晴らしいですし、小規模校が学校を超えて学び合える場を作っている教頭先生方の調整力に感服しました。若手教員の生の声もきけ、神戸町でも進めていきたいと感じました。(西濃地区 中学校)

若手教員の育成は急務である。校内での若手育成だけでなく、町内で連携し、互いに学び合ったり、ベテラン教員から学んだりすることで、より若手教員が安心して指導にあたる、働きがいを感じて勤務することができると感じた。(西濃地区 中学校)

若手教員を育成するには、各学校の教職員の雰囲気重要だと感じています。互いに支え合ったり、学び合ったりする気運の醸成を教頭や教務主任、研修主事を中心として取り組まれた点が大変参考になりました。(岐阜地区 中学校)

本校は来年度から義務教育学校となり、学校規模も少し大きくなります。来年度の実態に応じたメンタリングを図り、組織の活性化に繋げていきたいと感じました。(西濃地区 中学校)

本校を含む、当市南部でもメンター制度による複数校連携(主にリモート)を推進しており、成果をあげている。小規模校の実態からすると、若手のみならずメンター自身も学びができる場である。この取り組みが各地区で行われていることは、異動後もそういった学習環境が整えられていることになり、非常に有益であると感じた。当市においては、このメンタリングにおける教頭(教頭会)の関わりは非常に薄いため、養老町の発表を聞いて今後の関わりについて考えるところがあった。(東濃地区 中学校)

特に小学校では、単学級が増え、相談しづらい環境が年々拡大しているため、複数校連携によるメンタリングの需要が高いことがよくわかりました。(西濃地区 中学校)

少子化による学校の小規模化は市内で、二極化が進んでいるように感じています。教頭会の中でも小規模の複数校の連携があっても良いように思いました。(東濃地区 小学校)

郡内の教頭会組織で人材を育てようと実践していることに感銘を受けました。(可茂地区 中学校)

複数校連携によるメンタリングのよさを学ばせていただきました。いかにニーズに合った研修にするかが大切だと思いました。(西濃地区 小学校)

本校にも若手教員が多い、私自身も教頭として若手の育成には関心があり、この分科会を選びました。本校は若手の人数も多いため、校内だけでも若手同士が交流したり、悩みなどを相談したりしやすい環境にあるが、小規模校などで、若手の人数が少ない場合などは、複数校で連携を図ることはとても良い方法だと思います。(東濃地区 中学校)

教員が多くいればいいが本校のように複式学級の担任が母親であり、担任も2学年もつ場合はどんなサポートができるのか考えることができた。毎日が切実な問題で、新採とお子さんのいる教員に対し、何をしてほしいのか話し合いながら解決していこうと思います。何に困っているのかはじっくり話すことができないと分かり合えないので、少しでも負担をなくせるようにこれもチームで動いていくことが更に重要であると思いました。複数校連携も試みます(美濃地区 小学校)

小規模校における若手職員のスキルアップに有効な手段だと感じた。大規模校や中規模校のように学年会や教科部会ができない状況を、研修を行うことで同僚性が高まり、疑問や不安の解消につながることを学んだ。(東濃地区 中学校)

複数校でのメンタリングを実現することは困難であるという固定観念があったが、参加人数の多さや感想などからとても有意義で効果的であることがわかった。まず一歩踏みだして取り組んでみるのが重要だと感じた。(岐阜地区 小学校)

市内の教頭メンバーが多少の学校の規模の違いはあっても、リーダーの育成や若手を育てることに同じ課題を持っていることを共有している。教頭がともに連携をしながら課題解決のために努力、協力している。郡上市のチーム力のお陰で自分自身も励まされ助けられている。そんな郡上市のチーム力をこの発表で改めて感じた。(美濃地区 小学校)

本町教頭会の実践だったが、動画を見てこの2年間の取組を振り返ることができた。今年度の成果と課題を踏まえて、来年度も若手教員の育成を軸にしながら、すべての教職員の専門性や資質・能力を高められるような働きかけを行っていきたい。(西濃地区 中学校)

少子化が進み、自治体の経営も難しくなる未来を踏まえ、養老町での実践で多くのことを学ぶことができました。人的、時間的、地理的制約を克服しながら、中堅層を支え若手の育成を図るために、町全体で真剣に取り組んでいることが分かりました。校内での研修も難しい中、道徳研修会を企画し、運営に関わった教頭先生のご苦労に頭が下がります。働き方改革と相反することも多いかと思いますが、若手を育成することは管理職の責務だと思います。貴重な実践をありがとうございました。(東濃地区 中学校)

単学級で若手教員が多い学校の課題はどれも同じだと感じた。職員の思いを汲みとって多忙な中どのようにして研修などの学びの場を仕組んでいくか、参考になった。メンタリング機能はとても有効だと感じた。(岐阜地区 小学校)

校内だけでなく地区で若手を大切にしてみえることがよくわかりました。教頭先生方が人、学校をつなぎ、若手を育ててみえることがわかりました。若手の研修に限らず、つながりをつくることの大切さを改めて感じました。ありがとうございました。(美濃地区 中学校)

ハイブリッド方式など、無理のない開催方法を工夫しているところが素晴らしいと感じました。(岐阜地区 中学校)

若手教員の指導力向上を目指すためには校内だけでは無理があり、若手同士の学び合いも大切であると考えた。養老町さんのような仕組みを考えていく必要があると感じた。(西濃地区 小学校)

本郡も養老町と同じような職員構成、出生率の低下という現状であるので、人的、時間的、地理的制約を乗り越え、ニーズに応えるメンタリングの方法として手本を見せていただくことができた。教頭が繋がりをづくり、若

手の不安に寄り添い、中堅のやりがいを生み出す働きかけをしていけるよう、町内の教頭と連携していきたい。(西濃地区 小学校)

若手教員の育成は、自校の学校課題の一つです。30代が一人、40代はいません。あとは、20代と50代ばかりです。各学校ごとでの若手育成に限界を感じ難いのであれば、町として体制づくりを考え、町内のすべての若手職員を育てるという気持ちをもつこと大切だと思いました。それをコーディネートできるのは自分たちです。教務主任と連携しながら、必要に応じて合同研修を行ったり、校内研修を行うとよいと思います。長期休業日を利用したり、この時間を業務改善で見出したりしながら、教頭としての働きかけ方を考え、町教頭会で提案してみようという意欲が高まりました。「複数校連携メンタリング」のご提案、ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

16時頃まで授業がある以上、研修を考えた時には、どここの学校でも「3つの制約」を乗り越える必要があることを、当たり前のことですが改めて気付かされました。また、「教頭の役割は、メンターが力を発揮できるように働きかけること」「同世代の交流が『心理的な安全性』を生み出す」「若手だけでは『共感』だけで終わってしまう」などの大変心に響く発言がありました。本当にその通りだと思います。大変勉強になりました。素晴らしい発表をありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

本市も養老町と同様に小規模校が多く、若手の育成にあたり難しさがあります。複数校連携によるメンタリングの実践は、とても参考になると感じました。若手にとってだけでなく、メンターとなる先生方にも力をつける機会となると思います。(岐阜地区 中学校)

小規模校でなくとも若手職員を育てていく今回の取り組みは大変参考になりました。校内で研修が進められる規模であっても、時間的制約が課題となって思うように進められません。若手を育てながら、実はベテラン教職員も自分を見つめ直し、新たな学びにつながる研修を、私たちも実施していかなければと思いました。(岐阜地区 小学校)

小規模校・単学級の学校が多いのは山県市も同じです。職員不足が問題視されるなかで、現職が生き生きと働くこと(働き甲斐があることをアピールすること)は、とても有効だと感じました。若手教員を教頭会という組織が育てていることはとても素晴らしいです。(岐阜地区 小学校)

本校でも20～30代の教職員が多く、育成の必要性を感じています。研修は必要ですが、働き方改革により時間の制約がある中、どう取り組んでいくのか、大変参考になりました。(岐阜地区 中学校)

本校も全校53人の小規模校である。近隣の小学校に出向いての授業参観、合同授業を学期に数回行っている。教員の学び合いは、学校内では難しさを感じているので、この発表のように、教頭として職員のニーズを掴み、研修主事に指示を出して困り感に対する手立てを打っていくことが大切である。自信を持って子供たちの前に立てるよう、研修を通して、若手職員が自らの教材研究にも火をつけられるようにすることが大切である。(岐阜地区 小学校)

本校では、同じ中学校区内で子どもたちが交流授業を実施している。それと同じように、教職員も連携して研修等を実施していくことができるといいと思った。若手教員の育成だけでなく、ベテラン教員、ひとり職の例えば、教務、養護教諭、事務、そして教頭も一緒に相談していけたら素晴らしいと思った。(岐阜地区 小学校)

児童も教員も他校と交流し学び合うことは、大変価値があることだと思います。ただ、時間的制約がかなりあり準備調整も大変だと思います。担当者一人に任せず、様々な先生方とのつながりをもち、みんなで若手教員を育成していくことが大切だと思いました。(岐阜地区 小学校)

校内で学び合うことは取り入れていますが、近隣の学校で組織的にメンタリングをしてみえるところが、素晴らしいと思いました。教頭会として、共通の若手教員の育成の課題点を学校単独で対応することに限界があります。そういった中での取組でこの連携はとても参考になりました。ありがとうございました。(岐阜地区 中学校)

学校・職員・校区・地域をつなぐ重要な要が教頭であることを改めて感じ、今後の実践を行うにあたり大変参考となりました。ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

若手教員の育成は、とても夢がある魅力的な取組ということがひしひしと伝わってきました。1人で、1つの学校でやろうとしても上手くいかなかったり、困ったりするにですが、組織で対応すると、こんな大きなことができるんだと、明日への元気をもらいました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

若手教員の指導力アップについて、実際に生きる研修が行われていて真似したいところだと思いました。若手教員が「自分の授業力を上げたい」とどこまで本気思っているのかが、つかめずにいます。養老町の若い先生方のように、「学びたい」「子どもに力を付けたい」と思っていて前向きに授業づくりをしたいと思う若手教員を育てることに難しさを感じています。(飛騨地区 小学校)

授業力向上と地域連携のために、教頭がつながりを作り出すことが大切であると改めて認識することができました。他行の要請訪問に参加したり、それぞれの得意分野を生かしたサポーター制度を取り入れることを今後考えていきたいと思いました。また、学校運営協議会を活用して校区をつないだり、地域と学校をつないだりする取り組みも参考になりました。本校も学校運営協議会に生徒会役員が出席しており、生徒の願の実現と地域課題の克服という両方の側面を実現するよう教頭としてコーディネートしています。WIN&WINの関係の中で、これからも、地域の役に立っているという自己肯定感やふるさとに対する愛着を育てていきたいと思いま。(西濃地区 中学校)

若手教員が増え、その育成や支援が学校経営上、とても大切であると実感しています。負担になってはいけなしいし、でも、研修や学ぶ場、相談する場を設定しないと、育成や支援が進みません。また、共感だけに終わらないようにするためにも、その指導・助言は誰がするのか。まさに、時間と人の制約がある中、それでも子どもたちのために、教頭として取り組みたいことのご実践で、とても勉強になりました。地理的制約は、オンラインを活用することで、ずいぶんよいとは思いますが、やはり、対面が話しやすいと感じています。小規模校の校内だけでは、若手教員の数も少ないため、町内で協力し合うことはとてもよい方法だと思いましたが、そこで教頭も連携・協力し合えると思いました。この取組が、勤務時間内にできると1番よいのでしょうか、いつ、どのように時間と場を設けるかが、本校・本町で実践するならば課題になります。貴重なご実践を発表していただき、ありがとうございました。(西濃地区 中学校)

本校も決して大きな学校ではなく、若手教員の割合も多く、小学校勤務ばかりの学級担任が8割を占めています。そんな組織の中で、どのように専門性を高めていくかは喫緊の課題です。教務、教頭のマンパワーに頼るしかなく、その教務、教頭が多忙を極め、職員室に全くいない、子どもが下校してから本来の業務を行っているのが現状です。なんとかせねばと思うばかりです。(西濃地区 小学校)

町の児童数の実態把握と、若手、ベテラン教員の意識調査から見えてきた課題に対しての改善は、実にわかりやすく、多くの地域の参考になると思いました。また、道徳実践の紹介がありましたが、初任の先生の実践でもあり、学校、町全体で若手を支え、若手を育てていることは、本当に素晴らしいと思いました。(西濃地区 小学校)

今後も課題点を改善しながら、校内…複数校連携メンタリングによる若手教員の支援を続けていきたいと思えます。(西濃地区 小学校)

・複数校連携での若手育成をコーディネートしている点を学ばせていただきました。多忙化解消の観点から新しい試みはやりにくい現状があると思いますが、その中で工夫して実現しているところが素晴らしいと思います。他地域の研究授業動画を活用するという例が挙がっていましたが、きつともっとたくさんの工夫をして、多忙化解消と研修の充実を両立しているのだと思います。(飛騨地区 小学校)

人的・時間的・環境的課題を踏まえ、若手育成のためにたいへん工夫をされており、若手の先生の指導力向上はもちろん、メンターとなる先生方の仕事へのやりがいにつながるような取組でたいへん参考になりました。(岐阜地区 小学校)

若手がつながりながら、学び合う姿が素晴らしい。孤独感の解消につながると感じた。(西濃地区 中学校)

少子化による学校規模の縮小、同じ専門教科の教員がいないことによる若手教員の悩みに対し、「人的・時間的・地理的」制約を改善できるような実践を聞き、大変参考になりました。(東濃地区 中学校)

東濃地区、特に中津川市でもこの「若手教員が育つ学校」というテーマは、重要な学校経営の視点の一つです。教頭だけでは育成には時間も内容も十分ではないため、ベテラン教師の支援(育成へのやり甲斐)を大いに活用しながら、学校全体で育成に心がけている。(東濃地区 小学校)

・小規模校がほとんどの本市でも、同様に近隣校をつないだ研修への参加を行っています。養老町のように、教頭先生と教務主任(研修主事でもあるかと思いますが)と一緒に若手の育成に取り組んでいるところが素晴らしいと思えました。忙しさの中で、他の先生方を巻き込むことに抵抗がありましたが、より効果的な研修にし

ていくための方法を、今回の提言を参考にしながら、今後考えていきたいと思いました。ありがとうございました。(美濃地区 小学校)

若手教諭、ミドル層の育成が急務であるが、50歳以上は、教職員に還元できるようにしていくことも重要である。(岐阜地区 中学校)

ベテラン教員の経験知と若手教員の情熱の融合を図る学年配置を工夫している。また、今年度から設置された研修主事を中心として、自己啓発研修を定期的に位置づけている。その際、ベテラン教員を講師として学級経営や授業づくりについて講話してもらっている。(岐阜地区 小学校)

校内メンタリング、複数校連携メンタリングの具体的な実践が大変勉強になりました。若手教員の困り感やニーズを拾い集め、教頭同士が連携して企画していくことで、若手教員の力量の向上につながるということがよく分かりました。ありがとうございました。(西濃地区 中学校)

若手教員の育成は、本校でも大きな課題であり、他校との連携という試みが大変参考になった。(美濃地区 小学校)

若手の意識調査などに基づいて、メンタリングの効果を検証しているところが客観的で良いと思いました。道徳の授業など、参加した限られた人だけでなく、動画を見た全員の財産にできることに「なるほど」と思い、取り入れることができそうだと感じました。(可茂地区 中学校)

郡部での小中学校においては、単学級の学校が増えている現状があります。そうした中で、若手教員の指導力を高めるために、町内の学校で交流しながら研修をしていくことは大変意味があると感じました。時間調整などが難しいかもしれませんが、教員同士の横の繋がりをつくることにもなり、同じような年代がない小規模校の若手教員には特に有効であると感じました。(西濃地区 小学校)

少ない教科の学校間同士の連携した研修はすばらしいと感じました。(可茂地区 中学校)

どのようにして若手教員を育成していくとよいのかということは、どの学校でも抱えている問題だと思います。具体的な実践で大変参考になりました。(東濃地区 中学校)

若手教員の育成は、中堅が不足していると言われ始めてからの学校現場での大きな課題です。それを少しでも解消するために、学校間での交流する場を設けて教員の技術の向上を図っていくというのは、言うは易ですが、実践するためにはさまざまな調整が必要でついなおざりになってしまうこともあります。しかし、そうではなく、積極的に交流する場を設けることで、若手教員だけでなく、経験7年目以上の教員も新たな刺激を受け、技術向上につながっている。素晴らしいと思いました。(西濃地区 小学校)

若手教員のスキル向上を求められること、中堅職員の人数が不足していること以前からの学校現場の課題がありました。それを解消するために、学校内でのメンタリングを行うだけでなく、学校間の交流を持つということが素晴らしいと思いました。若手のための交流会を開くことは、ひいては7年目以上の経験ある教員にとってもよい刺激になると思います。それを調整して実践される教頭先生がたの働きに感銘を受けました。(西濃地区 小学校)

若手教員の育成について、具体的な支援の方法を聞くことができ、たくさん学ばせていただきました。本校も小規模校で若手教員が3人いるので、養老郡の発表にもあった実態と同一です。若手だけで話したり相談したりするだけでは、「共感」だけでそれ以上の成長は望めません。やはり「メンター」という役割の職員が入り、適切な研修を行うことが必要だと感じました。池田町においても、このような実践を取り入れてみたいと思いました。(西濃地区 小学校)

職員構成の偏りは県下全域の課題だと改めて感じました。また、そのような重要課題について取組み、実践を発表していただき、感謝です。町内の各校が研修主事をメンターとして位置付け、同一歩調を目指して取り組まれたことがとても参考になりました。平日に研修を行うことの難しさはあるものの、オンライン交流が定着しつつある中での有効な取組だと学ぶことができました。(西濃地区 小学校)

若手育成という課題に対して、アンケートによる実態把握をもとに、その手立てを教務主任任せにせずに、教頭がリーダーシップを発揮していることがよく伝わってきました。さらに、各校任せにせずに、養老町全体で若

手育成という課題に対して真摯に具体的に取り組まれていることに感動しました。動画も生の声があり、分かりやすかったです。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

市内中心部にいるためあまり感じていませんでしたが、小規模下に対応する合理的な仕組みが素晴らしいと感じました。ありがとうございました(岐阜地区 中学校)

少子化と校内の若手教員の割合の高さは、多くの学校で挙げられる課題であると思うが、この課題に対して、教頭としていかに実態を捉えコーディネートしていくかを現勤務校でも無理なく行えるような形で提案していただき、参考になった。(東濃地区 小学校)

OJTが機能しにくい現状があり、意図的なメンタリングが重要であると感じました。(岐阜地区 小学校)

職員をどのように育成していくのか、本校でも課題となっていますが、職員の意識調査を基に傾向を掴み、学校の実態にあった取り組みをされていることを見習って、取り入れたいと感じました。(東濃地区 小学校)

複数校で連携して若手職員を育てる取り組みにより、職員が課題と感じている内容に応じた研修を取り入れることができ、実際に成長に繋がった。(西濃地区 小学校)

本町の学校も急速に小規模化が進んでいます。学が意欲を強くもつ若手教員に対して十分に指導しきれない現状があり、大変心苦しく思っていました。今回の実践発表で複数校で支え、育てていく取組が非常に有効だと感じました。タブレットで授業もやり取りできる時代です。人的、時間的、距離的制約をクリアし、学校間の連携の調整を図るのが教頭の役割であると強く感じました。今後、どの地域でもこういった取り組みがなされていくことと思います。互いに気楽に学べる、そんな堅守にしたいです。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

若手教員同士が自主的に活動できる 場を作ることができないか。(飛騨地区 小学校)

少子化が進む中で、学校の小規模化は必然的に進行していく。特に都市部から離れた周辺部においてはその状況はより顕著になっている。また、ベテラン層教員の大量退職に伴う、若手教員の大量採用により、学校における教員の若年化が進んでいる。このような状況の中で若手教員の指導力向上は喫緊の課題である。このような現状を考えると本実践の意義は大きいと考える。自身の勤務地でも同様の状況があり、今後ますますこの傾向は進んでいく。同じ世代の若手教員を結びつけることや複数校またがってのメンタリングなど非常に有効な取組であると考え、発表の中にもあったように「時間的制約」をどのように乗り越えるのか。若手教員を指導する立場の教員がいるが、その教員の負担感を上げないように、若手、中堅(ベテラン)が win-win の状況をつくるのが大切であると感じている。しかし、中堅(ベテラン)の充実感を上げていくことは、これだけ業務が多い中、難しいと考えている。「地理的制約」は、ICT の活用によってオンラインでの会議は普通になってきているため、有効に活用していけるとよいと考える。(東濃地区 中学校)

若手教員の育成という面において、経験の少ない教員が、自信をもって子供の前に立ち、生き生きと働けるような環境設定の大切さがわかりました。実践のように教頭が学校をつなぎ、特に専科で人数の少ない教科など、若手だけに限らず各校の人材をつないでいくことは有効だと感じました。(岐阜地区 小学校)

小規模校では、なかなか校内での若手研修や職場研修では研修を進めることは難しいと思いますが、複数校で連携をすればそれが可能であることがわかりました。小規模校へ赴任時多際は、ぜひ取り組みたいと感じた。(岐阜地区 小学校)

瑞穂市は今後 2030 年頃まで人口が増加する稀な自治体であるため、児童生徒数が増える学校もある。若手教員の育成については、大規模校ならではの悩みを多い。学年主任の力量によって、若手教員の力量の高まりに差も生まれる。若手教員の感想からも伺えるように、「専門性や学習指導力を高めたい」と思っていることを念頭におき、教頭として、日常の授業を参観し、適宜支援していきたいと改めて思いました。心理的安全性を確保していくためにも、職員室等の職員同士の関わりにもアンテナを高くし視野を広げて観察し、状況に応じた支援ができるようになりたいと思います。意識調査から手立てを検証していく方法も、瑞穂市の研究の参考になりました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

人材不足のため、若手を育てていくことは急務です。貴重な提案と感じました。(東濃地区 小学校)

各学校ごとに教職員の年齢構成や困り感は違う。そのことを教職員の実態把握と分析といった取り組みでしっかりと捉え、その上でメンタリング機能を構築しているところは、ぜひ取り入れたいと思った。複数校連携メンタリングの調整も本校のような小さな町では大変重要であると感じた。(可茂地区 小学校)

職員数が少ないこともあり、他校との連携による研修について参考になりましたが、職員数が少ないため、研修に出かけることもままならない状況で悩んでしまいます。(東濃地区 中学校)

時間的制約、人的制約、地理的制約よくわかりました。少子化問題は、本当これからの課題ですし学校だけで動けません。自治と共に組織作りをして助け合い、ねらい・方法も大事ですが、子どもたちの幸せを奪わないようにしていかないと思いました。(岐阜地区 小学校)

校外との連絡、調整に教頭同士が繋がりを作り出すハブとなる。その手立て、効果が大変わかりやすく提案されており、その有効性に多くの学びを得ることができた。特に小規模校が半数を占める県内においてはこの体制を他市(当市)でも取り入れていくことが求められる。そのスタンダードとなる内容であった。また校内における教頭の役割として、企画力、調整力、そして支援がある。先ず職員の困り感を把握し、解消のために伴走(直接指導)する。その一方でより良い授業づくりを願っている若手職員同士の関係性を構築し、両輪とすることが持続可能な授業改善、学び続ける教師の育成においては不可欠であることを学ぶことができた。(東濃地区 中学校)

本校も小規模校になります。校内での授業等の交流は活発ですが、他校と交流しながら高め合っていくことがとても勉強になりました。時間的、地理的、人的制約を工夫して考えてみえることが勉強になりました。(美濃地区 小学校)

研修の大切さを実感しながらも、教員ひとりひとりのウエイトが大きくなってしまっている学校現場で、なかなか気持ちよく送り出してあげられないのが現状です。距離も時間も臨機応変に対応できるオンライン研修の利用は大変効果的だと実感します。しかし、対面だからこそ得られる学びの多さも実感しています。両方をバランスよく取り入れながら進めていけるよう、今後提言していきたいと思います。ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

学校間の連携は時間的な制約も含めて難しい点もありますが、若手教員のニーズを考えると、自校のみで終わらず、学校間での交流は大変有意義だと感じます。そこを教頭会としてマネジメントされた点が素晴らしいと思いました。(美濃地区 小学校)

校内、校外にかかわらずメンタリングを実施することによって若手教員を支援する仕組み作りに興味を持ちました。若い先生方の意識としてどんな手法での支援を求めているのかも気になるところです。(岐阜地区 小学校)

第5分科会では各校をつなぎ、若手教師の育成のためになる働きかけの具体が示され学ばせていただきました。規模によって担当業務も増減する中で、喫緊の課題として本校でも学びあう時間をどう生み出すのか課題と感じています。学校の垣根を越えて学びあうことが日常でも気兼ねなくできる仕組みづくりを管理職が先頭に立つて行う必要があると改めて感じました。ありがとうございました。(岐阜地区 中学校)

若手の育成は急務だといつも感じている。アンケートで、思いや実態をつかんだことはないので、参考にしたいと感じた。(西濃地区 小学校)

若手の教員が学びたいという思いで研修に取り組んでいる点が素晴らしいと思いました。(岐阜地区 中学校)

町内の先生方が、各校で、町内学校で学び合えることは素晴らしいと感じました。郡上市のマイサポーターと組み合わせると一層高まっていきそうだと思います。(西濃地区 小学校)

OJTは現場で有効であると感じる。先輩に学ぶという点で、全体の資質向上も必要であると感じた。(岐阜地区 中学校)

本校でもメンター研修を行っているが、複数校連携メンタリングを行っていることが大変参考になりました。今後、絶対に必要な取組だと思います。(東濃地区 小学校)

本校も小規模校なので若手教員や初任者の育成に課題を感じています。教頭としての働きかけなど、とても参考になりました。(西濃地区 中学校)

若手教員の育成の在り方について大変参考になりました。(可茂地区 中学校)

養老町に限らず、若手教員の育成は急務の課題で、学校内にとどまらず「複数学校連携」の中でその課題解決に取り組む枠組みは、特に少子化が進むこれからの学校においては重要な取り組みであると感じた。(西濃地区 小学校)

人口減少は、切実な問題であり、若手を育てるのも自校だけでなく他校を含めたチームで行うという取り組みが参考になりました。(西濃地区 小学校)

町内の学校がチームとなって若手教員を育てていく。そこには、若手だけではなく、中堅の教職員がメンターとなり、メンターの育成にもなっている。こうした取り組みは、学校だけで教職員を育成することが難しい状況があるため、今いる地域でも取り入れていけたらと考える。(美濃地区 中学校)

若手教員に対するかかわりについて、参考になりました。(西濃地区 中学校)

メンター制を使って若手だけの研修ではなく、ミドルリーダーの育成についても考えることが必要であることが一緒だと思いました。(西濃地区 小学校)

町内の若手を対象にした道徳の研修をされたことが大変有効だったということで、各学校で少ない人数で行うよりはそういった形で行うとよいことが分かりました。(西濃地区 小学校)

小規模校が多い中、いかにして若手教員を育てていくのかという実践は、大変聞き応えがありました。ベテラン・ミドル層教員が授業公開する、その後授業を「やりっぱなし」「参観しっぱなし」の状況で終わるのではなく、そこに若手とベテラン・ミドル層教員が対話する場を設定しているところがこの研修の要だと感じました。若手教員の困り感に耳を傾ける、あるいはベテラン・ミドル層教員の凝り固まった授業展開に新たな風を吹き込んでくれるかもしれません。学校内の年齢構成が不均衡になっている現状を踏まえると、他校(郡内)で連携し、町内校あげて若手(人材)育成に取り組む仕組みは、非常に画期的であると感じました。(西濃地区 小学校)

「人的制約」と「時間的制約」の両立が、とても必要だということが、よく分かりました。教頭としてこの両立を、どうコーディネートしていくのが、力の見せ所ですね。(東濃地区 中学校)

校内メンタリングの方法を学ばせていただきました。自校に取り入れたい(西濃地区 中学校)

6年目までの教員と7年目以降の教員のアンケートから、ニーズに応じた研修を研修主事や複数校の連携を生かすことによって効果的に行っていることが大変参考になりました。教頭職について2年目ですが、日々の業務に追われて、本来大切にすべき若手教員の育成やニーズに応じたタイムリーな研修を仕組むことに時間を割くことができていなかったと振り返りました。一人ではできないことも、うまく人材を活用したり、連携することで機会を増やしたりすることができることが実践からよくわかりました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

人材育成(特に若手の育成)についてはどの学校においても重要な課題となっていると思いますが、複数校連携によるメンタリングを行ったり、情報共有をしながら研修を実施したりと若手職員の心理的安全性を確保しながらよりよい方法を探り続ける取組に感銘を受けました。今後の参考とさせていただきたいと思います。(西濃地区 中学校)

複数校におけるメンタリング(岐阜地区 小学校)

自校は、小規模なので若手は3人です。それでも全職員で積極的にやりたくなりました。困り事交流、保護者対応交流など、早速やってみます。若手との対話時間を大切にしたいと思います。ありがとうございました。(飛騨地区 小学校)

小規模校における若手教員への指導や研修機会の確保について、周辺校との連携や、自主的な研修の運営、参加などのモデルケースとして参考になりました。(岐阜地区 小学校)

若手教師の指導力育成の喫緊の課題に正対し、教頭がリーダーシップを発揮して、調査・分析、連携・交流しながら若手が成長を実感できる実践を学ばせていただきました。(西濃地区 小学校)

若手の割合の増加、職員数の減少という状況から、他校との連携という方法を模索し、研修だけでなく、横のつながりも広がると感じた。教務が研修主事を兼務していることが多いと思うが、教頭と教務の連携も重要だと感じた。グラフや写真、動画など、大変分かりやすかった。(西濃地区 小学校)

本校はへき地・小規模校であり、まさに3つの制約がある環境にあります。そして、若手教員の特に授業力に関する課題は大きなものとなっています。メンター制をはじめとする他校との連携による養老町の取組は、とても参考になりました。本校でも、まず困り感を把握して、研修を企画してみようと思います。ありがとうございました。(飛騨地区 中学校)

3つの制約を明らかにした上で、その点にフォーカスした取り組みの仕方が、無駄なく効率的で大変素晴らしいと感じた。学校数が少ない中で、制約をクリアするために教頭会がワンチームとなり連携し、若手を育てている様子がよくわかりました。(岐阜地区 中学校)

小規模校においては、若手育成にかかわる人的制約は大きな課題である。また、働き方改革の推進により、時間的制約も避けられない。そのような中で、教員同士が学び合う組織文化の醸成は不可欠である。このような学び合いの組織文化の醸成に寄与する教頭の役割は大きい。(西濃地区 小学校)

小規模校が増えていく中で大切な取り組みだと感じた。(西濃地区 小学校)

研修会を開いたりするのは、大切であることは誰もが承知していますが、働き方改革を踏まえ、時間を有効に使うこと、教育課程をどのように組むのかなど、マネジメント力が必要であると感じました。(東濃地区 中学校)

どの地区においても共通な要素である「人的制約」「時間的制約」「地理的制約」に対して、若手教員育成のために、教頭の役割が明確であることがいかに大切かがわかりました。「対面」と「オンライン」のハイブリッド活用の会議等を通して、日々変化していく若手教員の困り感を把握し、メンター(教務主任など)をサポートしていく教頭が、たとえ異動などで人が入れ替わったとしても、機能していく仕組みを作り上げ、内容や方法をアップデートしていく姿勢を持ち続けることが、持続可能な社会の実現のために大切である点は、全く同感です。(美濃地区 小学校)

若手教員の育成に町内の学校で協力し合いながら取り組んでみえることの有用性が伝わってきました。勤務市では、初任時に加え、2年目は他校の教員とバディーを組みながら学ぶ場がありますが、3年目以降の若手教員にも学ぶ場があることは精神的にも技術向上の面でも有用であることがわかりました。若手の悩みに耳を傾けながら、自校だけではなく他校の教員からも学ぶ場を設定していきたいと思いました。(西濃地区 小学校)

自校だけでなく、地域で連携しながら先生方を育てるという理念に共感できた。どの学校でもできそうだと思うが、この地域で行うという地域あげでの共通理解や時間の捻出は難しいところもあるのではないかと思います。(可茂地区 小学校)

若手教員の育成と校内におけるメンタリングは、効率的な勤務を考えると検討すべき課題。参考になりました。(岐阜地区 小学校)

人材育成は急務であるが、それを意図的・計画的に進められていることに感心した。そのリーダーシップを発揮される教頭先生方に感銘を受けた。(岐阜地区 小学校)

我校は、育児休暇をとっている職員が6人いるため、講師6人である。その中に大学卒業したばかりの講師は2人いる。若手教員を育てながら学校運営をしていくことは、とても重要である。連携メンタリングというのが、とてもよいと感じた。負担がないように、でも生かしていけるような若手教師資質向上を我校でも取り入れていきたい。(可茂地区 小学校)

本町でも3小2中が互いの全校研を公開しながら学び合うシステムはあるが、なかなか時間的制約や人的制約のため、参加したくてもできない状況が続いている。ビデオに撮っておくというのは、それを解消するよい方法だと思った。今後に生かせそうである。(西濃地区 小学校)

若手を育成していくための取組が具体的に示されていて、とてもよくわかりました。小規模校の場合、町内全体で連携して研修を行っていくシステムが大変有効だと感じました。また、実際の困り感を把握して、それに対

応する研修を考えられていたのが、すぐに活かすことができるものになっていくので、大事なことだと思いました。校内の研修だけでなく、他校にも学びの場を広げていくということは、市内の研究授業に参加するなどの形で早速取り入れていける部分なので、自校でも推奨していきたいです。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

教科の専門性を活かし、小中が連携していくことが大切だと感じました。(東濃地区 中学校)

人的制限や時間的制限という課題は、県内のすべての学校に当てはまります。だからこそ、先生方の困り感を掘むために日常的に職員に声をかけ、いつでも学び合える環境を作っていくことが大切だと思いました。(岐阜地区 中学校)

学校規模は違えど互いに学び合う場を設けることは大切だと感じています。校内の職員の関係づくりも大切ですし、同世代だからこそ相談したいことや新たな挑戦へつながると感じました。(岐阜地区 小学校)

大変よく研究し、実践されていると思った。町内のデータをもとに若手教員の困り感を把握し、それを解消するために、養老町内を挙げて実践していらっしやることに感銘を受けた。そして、実践後の、アンケートを行い、課題を解消しているエビデンスもあることに驚いた。なかなか OJT ができない昨今なので、岐阜市や大垣市においても、若手を育てるための確かな実践を行わなければならないと感じた。(西濃地区 中学校)

町内の組織として同じ課題に向かうことで働き方改革にもつながっていると感じた。(飛騨地区 中学校)

身近なネットワークを活用して効果的、かつ持続的な人材育成をしている点が参考になりました。(岐阜地区 中学校)

複数校で連携した取組は、日程調整等大変だったと思いますが、他校の実情を知ることもより良い研修であると感じました。(岐阜地区 中学校)

若手教員が増える中で、働き方改革を考慮しながら、若手教員を育てていく術をたくさん教えていただきました。教頭の役割は、そうした場をいつ、どのような形で設定するか…若手の教員の育ちが私たちのモチベーションになります。(岐阜地区 小学校)

教員の構成が偏りがちの中で、力のある先生への学びや専門性の大切さ、その共有の大切さを感じた。コロナ禍の中で失われた「経験」について横のつながりを密にしていく必要性をここでも感じた(西濃地区 小学校)

教職員の意識調査を行い、実態を把握し分析して、具体的な取り組みを進めている点が大変参考になった。特に若手教員の困り感を把握し、要望に応じた研修の場等を設定していくことが若手教員を育てていくことになると感じた。また、小規模校では、相談しやすい同年代の職員や同じ専門教科の職員がなかなかおらず、複数校で連携して学び合っていることはとても素晴らしいと思った。教頭の働きかけや、いろいろな所とのつながりの大切さを改めて感じた。(美濃地区 中学校)

教員の意識調査から、研究の必然性があり、実践された後に、変容を見届ける調査、とても分かりやすく成果が分かる実践でした。(美濃地区 中学校)

複数校のメンタリングについて、現任校と周辺の学校と連携して進めていきたいと感じました。年齢差が大きい学校も周辺に多いので、若い教職員の一助になれたらよいと思いました。(東濃地区 小学校)

若手教員が増えていることや学校規模が小さくなってきていることは、海津市でも問題になっています。町の小中学校が連携して、若手教員を育成していくことは、とても大切なことです。教科研だけでなく、集まって意見が出しあえる場をつくれるよう、参考にしていきたいと思いました。ありがとうございました。(西濃地区 中学校)

校内だけではなく、複数高連携によるメンタリングが効果的であると感じた。大垣市では、初任研で連携校研修があるが、同世代から学んだり刺激を受けたりすることも多い。縦の繋がりや横のつながり、学校内外のつながりなどを作ったり、調整するなど、教頭として若手教員等の育成に貢献できるよう、積極的に働きかけを行いたいと思った。(西濃地区 小学校)

若い教職員が多くなり、様々な困り感を持って業務を遂行していることが自校でも感じられる。そこで、まずは、先生方の実態を把握し、先生方に困り感、必要感に応じたサポートをしていくことが大切だと感じた。さらには、教員として、指導力や専門性を向上させるために、同じ年代の先生方が互いに高めていくことができる研修

会を教頭としてコーディネートしていくことも大切だと感じた。

(西濃地区 小学校)

どの学校も若手教員の育成が課題になっているんだと痛感しました。昔のような方法だとパワハラなどと言われるので、新しい提案が聞けて良かったです。(岐阜地区 中学校)

若手の育成はどの地域でも課題の1つになっていると思います。教頭がつながりをつくりだし、持続可能な「磨き合い」ができるような環境にしていかなければいけないと思います。今年度の取組をもとにして、若手のニーズや学校の実態に応じて教頭ができることを考えていきたいと思いました。(西濃地区 中学校)

町内共通のアンケートを作成し、若手教員の意識を探り、その困り感にそった取組を行っているところが素晴らしいと感じた。(可茂地区 小学校)

良い学校作りには人材育成が必須と感じました(東濃地区 小学校)

校内におけるメンタリングで、ALT を交えた「英語でクッキング」は面白いアイデアだと思いました。また、他校と協力してオンラインで学び合えるのも素晴らしいと思いました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

若手教員の育成に関わって、他校との連携も大切だとわかった。(岐阜地区 小学校)

たいへん分かりやすかったです。ありがとうございました。(西濃地区 中学校)

以前勤めていた町であり、どんどん学校が小規模化していることは知っていました。発表のような町ぐるみでメンター制をしていることが大変素晴らしく、勉強になりました。本校は大規模校で、若手教員も多い中、中堅やベテラン教員がよく面倒を見てくれています。そのような環境が、町として連携してつくれることに、感心しています。時間や地理的制約をオンラインで解消し、今後も引き続き取り組まれることに期待します。(西濃地区 中学校)

養老町全体が課題を共有し、その改善のために一丸となって取り組んでいることがよく分かりました。そしてその要として教頭の存在があることもよく分かりました。教師の年代バランスは私が勤める学校でも大きな問題ですが、時間的な制約があり具体策が打てていない現状でした。そんな中、他校の授業を参観し、研究会はオンラインで行うという実践はぜひ真似してみたいと思いました。この方法なら学校を離れる時間が少なく済み、かつ学び合いも時間を気にすることなく落ち着いて行うことができます。こういうアイデアを作り出すのも教頭の大切な仕事のひとつだと再認識できました。(飛騨地区 中学校)

しっかりとした根拠をもとに実践されて見えました。職員が生き生きと発表して見えたのが印象的でした。ありがとうございました。(東濃地区 中学校)

職員のニーズに合った研修の場を設定するため、教頭同士の連携が必要であること。その際、職員の熱意と労務管理の両立に配慮する必要があることを学んだ。(美濃地区 小学校)

若手の実態や困り感を丁寧に把握していることや、ベテラン層や中間層の得意分野を活かすことで、全世代にとってメリットの多い取組が素晴らしいと思いました。教頭として作り出すつながりを、校内から町内へと広げていきたいと感じました。(東濃地区 小学校)

養老町の実態を分析され、今後の見通しから、若手教員の育成に着手され、研究をされていて、改めてメンタリングの大切さを実感した。研究の中で、実態にあったメンタリング、複数校連携メンタリングなど、若手教員の共有の場や学びの場を提供し、若手育成につなげてみえ、養老町の若手教員は指導力や専門性を高めていく機会があり、素晴らしい実践だと感じた。また教頭として、提案、企画調整、実施などメンターが力を発揮できる働きかけや見届けと、リーダーシップを発揮してみえ、自校にも生かしていきたいと思う。ありがとうございました。(西濃地区 中学校)

校内だけでなく、複数校連携してメンタリングをしているところが率直にすごいと感じました。しっかりと若手教員の困り感、ニーズを把握し、取り組んでみえるところ、組織全体を巻き込んで行っていることがとても勉強になりました。(西濃地区 中学校)

若手教員が互いに高め合い、交流をもてる取組は、とても大切だと思います。先日、中学校で行われた研修会に、小学校職員も参加する取組を行いました。中学校から声をかけて頂きましたが、若手教員が多数参加しまし

た。そうした関わりが今後も必要になってくると思います。地域の学校ぐるみで若手を育てる、若手が元気にがんばることで、ベテラン教員も刺激になるという取組は、とても参考になりました。(岐阜地区 小学校)

メンタリングの中で、特に、夏季休業中のワークショップ型研修において、若手教員だけでなく、授業を提供したベテラン教員の双方に学びがあり、活発な研修会を企画運営なされていることに好感がもてた。複数校連携メンタリングとして、職員同士がつながり合って学び合うことで、日々の指導のモチベーションとなり、スキルを高めていくことに繋がる好事例だと感じた。参考にして、まずは中学校区内の学校間での取り組みを考えてみたい。(岐阜地区 小学校)

本校においても、学級担任のほとんどが2校完までの職員で占めており、若手職員の資質向上は重要課題である。本校でもメンター会議を実施しており、校区の小学校とも連携して行ったこともあり、共感しながら視聴させていただいた。今回、オンラインでの充実した研修を学ばせていただいたので、早速本校でも導入していきたいと考えました。(岐阜地区 中学校)

今後、児童生徒数が減少し、校内の職員数も減っていくことが予想されます。だからこそ、養老町の実践を大いに参考にし、教師の専門性を高めるための実践を進めていきたいと思いました。(西濃地区 中学校)

若手の先生方が増える中、若手の方々が指導や保護者対応について悩みながらも踏ん張れるメンタルであり続けていただくことは、管理職として尽力しなければならないと思います。学校をまたいだ場の設定や内容の工夫を通じた実践は大変参考になりました。(美濃地区 中学校)

小規模校においては、どうしても若手の職員が自主的に学ぶ機会が少ないように思います。そのような場合でも、同じ町内の学校の同年代の職員と研修を行うということは有意義で参考になりました。ただし、課題でもおっしゃったようにいかに勤務時間内に行くかということが難しいと思います。いい方法をまた探りたいと思います。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

まず、教育現場は実態把握や将来的展望を主観で捉えがちですが、客観的データを基に実践・検証していることが、私たちの見習うべき点でした。私は教頭の立場で、教頭2名が在籍する大・中規模校しか経験がなく、いかに現場経験を通して効率的に人材育成するかに注力してきましたが、小規模校で「人的制約」「時間的制約」…なるほど見入りました。若手に自力で学校間の垣根を超えて学ぶ術を求めることはできず、小規模校では意図的に設定する必要がありますね。本当に学ばせていただきました。ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

受け身にならない研修会のあり方について勉強になった。学校規模が小さくなっていくからこそ、近隣の学校と連携した研修というのは、話しやすい環境づくりにつながるので、とても良いことだと感じた。(東濃地区 小学校)

職員内において若手職員の占める割合が増え、指導力を含め、配慮しなければいけない事柄が多岐にわたっていると感じました。自校に合ったマネジメントを探っていきたいと思います。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

それぞれの世代の抱える課題を解決する方途を学ぶことができました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

校外にメンターを設けたり、同世代のつながりを生み出す取組は参考になります。(東濃地区 小学校)

働き方改革を推進する中で、研修を行うためには、ICT 機器を活用し人的・時間的に補いよりよい研修の場を設けることが大切であると学んだ。(岐阜地区 中学校)

校内・複数校によるメンタリングの実践は、若手教員の支援にとっても有効だと感じた。同じ悩みや困り感を共有したり、実践について交流したりすることで、学び合えたり、励まし合えたりする良い機会となると感じた。(岐阜地区 小学校)

若手育成はどこの学校でも地域でも重大な課題となっています。それを学校の現状と若手自身の困り感に寄り添って研修を行っている事が素晴らしいと思いました。本町は、2つの学園のみの町ですので、この実践を参考に複数校連携(本町は、町内連携)をより進めていきたいです。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

若手育成はどこの学校でも地域でも重大な課題となっています。それを学校の現状と若手自身の困り感に寄り添って研修を行っている事が素晴らしいと思いました。本町は、2つの学園のみの町ですので、この実践を参考に複数校連携(本町は、町内連携)をより進めていきたいです。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

教職員の意識調査結果分析を基に課題を見出され、解決に向けて効果的な内容で研修を進めてみえるところが勉強になりました。まず校内で、次に他校とでと計画的に進めてみえ、無理なく推進してみえることもよいです。個人のニーズに合わせて他校の指導力のある教職員から話を聴く機会が多くなることはとても効率的でよいとも思いました。(岐阜地区 小学校)

若手が育つ学校、若手の多い本校も目指していますが、なかなか若手の意識を変えていくことができません。取り組みを参考にさせていただきたいと思います。(岐阜地区 小学校)

若手教員が増えるなか、どのように育成をしていったらよいかは常に考えている課題である。本町では6年目までの教員が大変多くいるので、困り感を抱いていることを前提に、夏期研修等を活用し、実践交流会を実施するなどの取組を計画していく必要があると感じた。(岐阜地区 中学校)

若手職員を複数校連携で育成することで、困り感の軽減や安心感を与えることができるなど、メリットの部分が大きい実践ではないかと思いました。(岐阜地区 小学校)

若手教職員の育成は、学校課題の一つです。初任者校内指導員や教務主任など、一部の者で担うものでなく、全教職員で若手教職員を支え、育てていくといった体勢や空気感がなければ、成り立たないものども感じています。同僚性や資質充実期、貢献期の経験など、学校の職員構成に適した育成体制を作り上げていく必要があります。岐阜県の教育の未来のためにも重要な今日的課題です。そういった点で、大変参考となるご実践をいただきました。ありがとうございました。(東濃地区 小学校)

メンタリングによる若手教員の支援は、今の学校現場において非常に大切だと考える。若手とメンターを調整する役割の重要性とその方途について学ぶことができた。まずは、校内のメンタリングについて再構築していきたい。(西濃地区 小学校)

複数校連携メンタリングの実施のためには、日程の調整がかなり困難であると考えますが、実際に複数回実施されたとのことでした。その連絡・調整には本当に苦労されたと思います。その際、教育委員会をはじめ、市内の学校職員など、多くの方に丁寧に説明を繰り返し、対話を繰り返しながら活動への理解を広げていかれたことを想像します。今後若手の育成だけでなく、多くのことで複数校の連携が必要になってくると思いますが、その際、今回養老町教頭会が実践された方法を参考にしながら連携強化を図っていけばいいのだということを学ばせていただきました。(東濃地区 中学校)

複数の学校が連携することにより、若手職員を組織で支え育てている素晴らしさを感じた。教頭先生方のリーダーシップをとることで、「時間・地理・人」の制約を解消しながら効果的に研修していくことができることを学んだ方(岐阜地区 小学校)

校内のメンタリングに関して、意識調査をもとに客観的な検証がなされていることが素晴らしいと思いました。働き方改革とのバランスが求められるために時間の制約が難しいところですが、若手の困り感やニーズに応じることによって負担感が軽減され、先生方の充実感につながっていると感じました。(岐阜地区 小学校)

若手教員が育つ学校は、ベテラン教員も良い影響があると思います。具体的な連携がわかりました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

教頭が、若手の困り感やニーズを察知しながら、各校と連携して進めていくこと。(西濃地区 小学校)

若手の育成はこれからの学校を支える重要課題であると改めて思いました。(飛騨地区 中学校)

若手育成は喫緊の学校課題です。小規模校で校内での育成に限らず学校間で学びの場をつくる取り組みは大変興味深かったです。教頭会提言にとどまらず、教育行政の一施策としての価値を見出せると思います。(岐阜地区 中学校)

若手教員の増加に十分対応しきれていないのが現状なので、校内だけでなく複数校が連携した研修をコーディネートしていくことが有効であることが良く分かった。(美濃地区 小学校)

若手育成のためには、メンタリングが大切だと改めて思った。しかし、困り感を聞くだけでなく、具体的に教えることも重要であると感じた。(岐阜地区 中学校)

第4分科会ともつながりますが、このように校内と連携校とで協働して若手を育成する体制は参考になりました。(飛騨地区 中学校)

若手の育成はどの学校でも喫緊の課題となっているが、良さそうな手立てもいろいろな制約がありなかなか進まないのが現状である。そうした中、具体的な手立てを提示していただき、大変勉強になりました。(可茂地区 小学校)

単学級が増え、相談ができない、一人で学年の仕事をしなくてはいけなくて負担感が大きいなどの悩みは勤務校でも同じです。同じ専門教科の教員がいないので相談しづらいところに、他校の先生と学び合える機会があることは素晴らしいと思いました。負担感も出てきそうですが、楽しんで実践されていて更に素晴らしいです。(東濃地区 小学校)

1校だけでは、学びたい授業研究が行われないことも多いものですが、複数校で連携することで、充実した研修が行われていると感じました。動画を事前に見ることや、付箋に書き込んでおくことで、制約される時間が短縮され、よいと思いました。また、授業提供された先生も、若手から学ぶことがあったとおっしゃっていたので、とても良い研修だったのだらうと思います。取り入れていくとよいと思いますが、準備、調整をするのは大変かもしれませんね。(岐阜地区 小学校)

若手教員の育成はどの学校でも重要課題だが、自校のみでは限界があるところ、複数校連携の実践は大変参考になった。(飛騨地区 中学校)

学校や校種を越えた連携について、どの地域においても考えていかなければならないと感じた。教員自身から求め、学ぶ姿勢をもつことを第一とする。その上で、ニーズに応じて若手教員の学びの場を広げること、中堅教員の資質や能力を高める機会をもつことを大切にしたい。実践内容を視聴して、学ぶことが多かった。(西濃地区 小学校)

教頭間で複数校によるメンターチームを構成することで、学ぶ機会を求めている教員のニーズに応えるだけでなく、経験豊富なメンターからの指摘によって、学ぶべき視点への気づきを促すことができている点が素晴らしいと思いました。(東濃地区 中学校)

小規模校におけるメンタリングのマッチングの困難さを、複数校連携することにより解消しようという試みを市町村教育委員会と連携して取り組んでいることで成果を生んでいる実践だと感じました。本校も小規模校のため、若手の指導力向上とベテラン、ミドル層のリーダーとしての資質能力向上が急務です。現在、岐阜市内の小規模校3校がつながるシステムが構築され、オンライン授業を行っていますが、養老町の取組のように、教師どうしが学び合う体制を構築するため教頭のマネジメントのあり方を3校の教頭会で検討していきたいです。(岐阜地区 小学校)

本校においては若手・ベテランの二極化があり、若手教員の育成が大切だと考えている。小グループでの研修を月に一度位置づけ、ベテランから学ぶ、若手から学ぶ場となっている。別件だが若手は子育て世代のものも多く、幼い子の体調不良で休みを取るケースが多発しており、授業の補充が難しい状況にある。現場は人が少ないことに疲弊している(岐阜地区 小学校)

年間の見通しをもって計画的に連携を深めて取り組まれていることが素晴らしいです。見通しがもてることで、若手も学びやすかったと思います。(美濃地区 中学校)

私も以前揖斐郡に勤務していた時、他校の若手を集めて参加希望型研修としてミシン教室や版画絵画教室をやったことを思い出しました。わからないではなく時間がないと言う意識が強い事は興味深かったです。(東濃地区 小学校)

メンターの選定のための打ち合わせや承諾等、大変かと思いますが、若手職員の学校職員としての育成と教科指導等による教員の専門性の育成に効果的ではないかと思います。(西濃地区 中学校)

小規模校が多くなっていく現状を踏まえて、若手教職員の困り感を少しでも無くし、また、指導力を向上させることにつながる実践だと思いました。これから、学校間でという広い視野で、教頭としてどのように組織づくりをしていくかを考えていく必要があることを学ぶことができました。(西濃地区 小学校)

町内の小中学校で連携して取り組んでみえるのがすばらしいです。若手同士が関わる機会を工夫したいと思いました。(東濃地区 小学校)

本校職員は平均年齢が30代であり、活力に満ちた勢いが感じられる反面、勤務時間の管理や指導力の向上等、様々な課題があります。研修の位置付け・実施を積極的に考えていかなければなりません。(岐阜地区 中学校)

教頭の重要な業務の一つである人材育成のために、メンタリングを中心とした実践がされていました。教員が研修の下で連帯感をもちながら仕事ができている姿は、働き方改革の一つだと感じました。ありがとうございました。(東濃地区 小学校)

若手教員が生き生きと語る最後のビデオがとても印象的だった。若手教員のニーズに合った研修の場の在り方、また近隣の学校で連携を取りながら、その学校の職員のよさや特印部やを生かした研修の場を生み出すことは、ミドルリーダーを育てることにもつながる素晴らしさを学んだ。(美濃地区 小学校)

経験年数の短い教員が、人との繋がりにより安心感を持てたり、学習指導の参考になったりするなど、校内はもちろんのこと、他校との繋がりをつくったところも素晴らしいと思いました。これらの学びが、教員の安心感となり、児童生徒の前に自信を持って立つことができる姿に繋がるのではないかと思います。ありがとうございました。(美濃地区 小学校)

若手教員の育成という喫緊の課題について、町をあげて取り組んでいることがよく分かりました。(東濃地区 中学校)

自校は小規模校であり単学級や複式学級であるため、若手教員が相談する体制がとりにくい実情がある。教科担任制であるため空き時間を確保し、他の先生の授業を参観し、直接学べる体制をもっている。また全校で総合的な学習の時間を縦割りで行い、全職員で学びあう研究の機会は大きな学びの場になっている。さらに個人的な悩みや指導への迷いを聞く体制を整備していく必要があると思った。(飛騨地区 小学校)

学校規模に関係なく、教頭の連携と親和性に基づき、学校間をオンラインでつなぎ、学び続ける教員集団の育成を力を注ぎ、成果をあげていることを学ばせていただきました。ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

学校規模が小さくなっていく現在、自校だけでなく、同一中学校区あるいは市町村単位で組織的に若手育成に取り組む必要がある。このことは教頭の業務負担削減にもつながってくると感じている。(飛騨地区 小学校)

若手教員が市町村単位で集まって学ぶ機会を管理職が意図的に作る事が学びにつながる事がわかりました。(岐阜地区 小学校)

人的制約や時間的制約、地理的制約の中で、学びの幅や内容を広げるこの方法もありだと思った。同じ学校に同じ専門教科の教員がいない場合や道徳など、学校で研究を進めていなければ授業を見ることもできない。今年度、道計に当たっていたので、全校の職員で同じ授業を見て研究会をしたが、コロナ禍で、かつてのような研究会もできなかったことを思うと、今回は、とても学びになった。やはり、授業は見ると良いとしみじみと思う。あとは、教頭や教務の調整の困難さや面倒さをクリアするしかない。若手教員同士の話し合いや困り感を共有することで、心理的安全性が生まれるという言葉に納得である。(岐阜地区 小学校)

若手教員の困り感や要望を吸い上げ、研修に生かすことは実態に即した研修ができてよいと思います。複数校連携という体制も、年代や専門が十分にバランスのとれていない現状では、人材育成の重要な手立ての一つだと思います。一斉の研修ではなく個々の困り感を重視したメンタリングは、教師の個別最適な学びにつながっていると感じました。そのネットワークを作るにはやはり教頭のリーダーシップは重要だと思います。(飛騨地区 小学校)

若手教員が育つ学校を、校内や複数校連携によって実現していく動きを、教頭が中心となって作り出し、運営していくことの大切さと有効性を学びました。教員数が減少し、また、小規模校が多くなってきている中、市内の学校同士が連携、協力し、学び合ったり、交流を行っていくということは、とても大切なことだと思います。

しかし、それぞれの学校の予定や日課、位置関係など「制約」となっていることを強く感じます。そのことを、教頭がつながりをつくることで解消したり、ICTを活用して解消したりすることを実現していった、教頭会でのつながりが活きているのだと感じました。発表動画の中に見られたどの先生方も、笑顔で生き生きとしておられることが、取組のよさを示していると感じました。ありがとうございました。(美濃地区 小学校)

若手教員への指導について実践から方法を学ぶことができた。(美濃地区 中学校)

若手が育つ学校を目指してと言う部分では、私の学校にも若い先生がいます。もっともつがむしゃらに遠慮なく取り組めばいいのにも思うこともあります。そんな時、やはり適切なアドバイスをしたり、一緒に考えたりする事ができるし、また近隣の先生方とも連携を取りながら、お肌の先生が仲間を作り、そして目の前の子供たちのために精一杯頑張れる、そんな環境作りを私自身がやらなければならないと感じました。ありがとうございました。(飛騨地区 小学校)

瑞浪市も小規模校が多いため、学校間の情報共有や合同研修ができるように教頭がつながることが大切だと感じました。(東濃地区 小学校)

複数の学校をつないで若手の育成に取り組む中で、メンターの位置付けやその役割の明確化など、組織的な動きが確立されていた。若手教員の困り感に寄り添って研究が進められていた。(美濃地区 小学校)

本校は学級担任の7割が計画配置中の職員であり、経験の浅い職員が多いため、若手教員の育成は大きな課題と考え、校内でもさまざまな研修等を仕組み、学びあう場をもっています。発表を聞き考えたことは、町内の若手教職員を育てることが、同じ地域で育つ子どもたちを同一歩調で育てていくことに繋がっているということです。だからこそ、若手教職員の指導力や専門性を高めるために、町内の学校で連携し、地域の教職員が互いに学びあう場をもつことが大切であると改めて感じました。参考にし、取り入れていけたら…と思いました。(西濃地区 小学校)

中堅教員が少ない中、若手教員をどのように育成していくのかについては、喫緊の課題である。そのための具体的方途として、大変参考になるものであった。特に、同僚性については、意識しているつもりではあるが、教頭の働きかけだけでは、不十分である。学校全体、さらに市全体で若手教員の育成に取り組んでいかななくてはならないと強く感じた。(東濃地区 小学校)

校内だけでなく、複数校で連携したメンタリングは有効であると感じます。(飛騨地区 小学校)

少子化という課題に対し町内が一つの目標に向かって、3つの観点から取り組まれたことは大変参考になりました。一郡一町のまとまりがとても伝わってきて、若手を核に教職員全体が伸びていることが分かったので、本校でも実践できるものから取り組みたいです。(西濃地区 中学校)

教頭が繋がりをつくり出すことが持続可能な磨き合いの組織文化をつくり出すという言葉が印象に残った。自分もそういった雰囲気職員室の中で生み出していけるようにしていきたい。(岐阜地区 小学校)

本校でも同じ問題を抱えているので、大変参考になりました。オンラインや対面式のメンタリングを実施したり、複数校の連携による研修方式は、画期的だなと感じました。若手教員への支援は、話だけでなく具体的な活動や体験を通していくことの必要性も感じます。(西濃地区 小学校)